



このえ町

第63号

議会だより

発行/九重町議会

〒879-4803
大分県玖珠郡九重町大字後野上8-1

☎ 0973-76-3814

編集/議会広報編集委員会
印刷/尾花印刷有限公司



建設産業常任委員会
町道認定について
9月11日、川東の現地で建設課長及び
地元より説明をうける。

9
月
定
例
会

- **第3回定例会** 契約関係・財産取得・補正予算関係 P.2
- **条例関係 陳情** P.3
- **請願・議員発議** P.4
- **特集 どうする・どうなる2町合併質疑・討論** P.5～7
- **一般質問（6名登壇）** P.8～13
- **わたしのひとこと**
 - 東飯田 日野 賢二さん P.15
 - 南山田 矢野 正三さん
- **こんな町にしてほしい** 野上中学校3年 小野 茜さん P.16

平成15年

第3回定例会

9月9日～19日(11日間)



改築される淮國小プール

議案21件・陳情7件
請願2件を慎重に審議しました。

契約関係

工事名

● 淮國小学校プール

改築主体工事

契約方法

指名競争入札

契約金額

5千9百85万円

契約業者

九重町大字町田

株式会社大東建設

代表取締役 小田浩治

財産取得

● 『ごみ収集車』

契約方法

指名競争入札

契約金額

8百11万6千5百円

取得の相手方

九州日野自動車KK

日田支店

補正予算

一般会計

▽補正額

2億3千7百54万7千円

▽累計額

80億4千9百38万4千円

補正の主なもの

北方線道路改良事業費

2千百万円

補正予算審議

Q 歳入の中で、寺田住宅の火災保険の1千万円が入っているが、これは町営住宅の修理をするのか、それとも入居者に対する補償なのか。

A 町営住宅は火災保険に一括して加入していますので、その保険金を主財源にして立替を行います。入居者が保険「家財」に入っている場合は、個人に支払われると思いますが、町からの入居者に対して補償するものはありません。

Q 北方線道路改良事業工事業費の補正で、2千百万円が計上されているが、工事内容は道路内の橋の取り壊し、その他と聞いている。当初予算4千万円を計上する際に、今回の工事変更は予測できなかったのか。

A 当初は橋を補強する予定でしたが、それでは幅が狭く工事車が通れないので、橋を壊して、カルバート管を入れ道路を拡げることにしたためと、その他の追加工事もあつて2千百万円補正を組んだ。最初の見込みも少し甘かった。

議会の動き

7月	九重町建設協会総会
1日	正副議長研修会(別府市)
4日	九重町消防大会
6日	自営者育成後援会総会
16日	(玖珠農業高等学校)
"	交通安全街頭啓発
17日	(総務財政常任委員会)
"	日出生台演習場関係三町連絡協議会総会
"	(湯布院町)
"	交通安全街頭啓発
18日	(建設産業常任委員会)
"	人権を考える講演の夕べ
"	国道387号宇佐玖珠地方道路整備促進期成会総会(院内町)
"	久大地区活性化議長連絡協議会総会(湯布院町)
22日	交通安全街頭啓発
"	(教育民生常任委員会)
24日	玖珠郡議員大会(玖珠町)
25日	九重町消防団退団者感謝状贈呈式
"	農業委員会委員との意見交換会
28日	(建設産業常任委員会)
"	日田玖珠広域臨時会
"	(日田市)
"	交通安全街頭啓発
29日	(建設産業常任委員会)
"	交通安全街頭啓発
30日	(教育民生常任委員会)
"	建設・産業正副委員長研修会(大分市)
31日	本会議(臨時会)
8月	町営恵良住宅起工式
2日	福岡県桂川町議会視察来町
5日	大分県農業会議玖珠支部総会(玖珠町)
6日	

条例関係

〔九重町総合行政ネットワーク施設の設置及び管理に関する条例の制定については。〕

九重町総合行政ネットワーク事業が完了したことにより、設置及び管理等についての条例を制定するものであり適当であるとの結論に達しました。

〔特別土地保有税審議会条例を廃止する条例については。〕

納税義務免除の認定について、審議会への付議要件が廃止されたことに伴う条例の廃止であり、適当であるとの結論に達しました。

〔記号式投票に関する条例の一部を改正する条例については。〕

公職選挙法の改正により期日前投票（法第222条の2）が導入されたが、記号式投票においては対象外とされていることから、適用除外規定に加えるための改正であり、適当であるとの結論に達しました。



みなさん方の陳情や 請願はこうなりました。

陳情

〔東方塾塾長、梅木義邦氏外3名からの地域と中小企業への金融環境を活性化させる法律の制定を求める意見書の提出については。〕

慎重に審議した結果、さらに調査研究する必要があると継続審査することで意見の一致をみしました。

〔九重町建設協会会長、井原淳一氏からの町内業者の育成については。〕

町内業者の育成促進は論を待たないところであり、陳情の趣旨は理解できるところから採択することで意見の一致をみしました。なお入札等にあたっては、透明性の確保、公正な競争の促進

不正行為の排除、適正な施行の確保など公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律等関係法令に則り厳正な執行に努められ

たい。
〔筋湯区長、梅木達夫氏外2名からの災害復旧については。〕

人家のすぐ近くが崩壊しており、危険な状況にある該地は、急傾斜危険地域に指定されていることから県への働きかけを強め早急に対策を講じる必要がある。よって採択することで意見の一致をみしました。

〔自治労大分県本部九重町職員労働組合執行委員長、熊谷貞義氏からの日米地位協定の抜本改正を求める意見書の提出については。〕

特に沖繩米軍基地に対する騒音や環境破壊、沖繩県民の生命、財産と人権を守るため日米地位協定の抜本的な改正を求めるものであります。また大分県町村議会議長会からもほぼ同じ趣旨で日米地位協定の見直しに関する決議の議決依頼がきています。この決議案は

全国の米軍基地の環境改善を求めるための決議内容となっており、この決議を議員提出することで意見の一致をみしました。したがって決議と同一趣旨と認められるため採択いたします。
〔自治労大分県本部九重町職員労働組合執行委員長、熊谷貞義氏からの地方自治の充実強化を求める意見書の提出については。〕

市町村合併特例期限後においても自主的合併を促進するため県の勧告、あつせんや段階補正の更なる見直しが検討されています。このような手法は、地方の団体自治、住民自治を制限することにつながるものであるため地方自治の充実、強化を求める意見書の提出であり採択することで意見の一致をみしました。

〔川東上区長、財津幸光氏外4名からの町道認定については。〕

生活道路としての利用は勿論であるが災害や工事時の迂回路として重要な道路であることから採択すること意見の一致をみしました。

生活道路としての利用は勿論であるが災害や工事時の迂回路として重要な道路であることから採択すること意見の一致をみしました。

7日	部落解放同盟九重支部との懇談会
15日	成人式
18日	議会広報委員研修会（大分市）
19日	介護研修
21日	（教育民生常任委員会） 玖珠地区広域営農団地農道整備事業推進協議会総会（玖珠町）
28日	教育フォーラム （教育民生常任委員会）
9月 2日	国道387号道路整備促進の要望（国土交通省九州地方整備局）
3日	玖珠広域常任委員会（玖珠町）
4日	議会運営委員会 玖珠郡行政連絡協議会（玖珠町）
5日	鳴子川溪谷周辺整備事業に係る要望（日田西部森林管理署）
8日	島根県六道町議会視察来町 本会議（開会）
9日	全員協議会
10日	議会広報特別委員会 本会議（一般質問）
11日	建設産業常任委員会 教育民生常任委員会
13日	戦没者追悼式
16日	市町村合併対策特別委員会 鳴子川周辺調査特別委員会
19日	本会議（閉会）
20日	県民体育大会議員リレー
21日	県民体育大会
22日	（議員ソフトボール） 議会広報特別委員会
25日	日田玖珠広域定例会
26日	（日田市）

陳情

〔平成12年度九重町幼稚園PTA連合会有志代表、増田裕子氏からの幼、保一体化に伴う施設の統廃合について。〕

絶対反対する内容であるが、執行部が関係者への説明会を開催し、今後においては関係者を含めた検討委員の設置も考えていることから委員会としても、推移を見守る必要もあり継続審査とすることで意見の一致をみました。

請願

〔JA飯田組合長、武田正利氏並びにJA玖珠九重組合長、宿利和人氏からのWTO農業交渉に関する請願について。〕

WTO農業交渉で関税率の上限設定や関税割り当ての拡大等が決定されれば、農産物輸入は一層増大し、農業を大きく圧迫して、ひいては農業、農村の崩壊につながるかねないことから採択することで意見の一致をみました。

発議

〔道路特定財源の確保を求める意見書〕

少子化、高齢化が進んでいる中、町づくりなど活力ある地域形成のためにも、その基盤となる道路、交通体系の整備が緊急課題である。公共投資を着実に実施し、次世代に誇ることのできる国土を形成するため、社会資本を計画的に整備する事が重要である。道路こそ、その中核的役割を担うものである。高速自動車道の整備を推進し道路特定財源はすべて道路整備に充当し、また、その資金の充実に図るよう特段の配慮がなされるよう強く要望する。

〔地方自治の充実、強化を求める意見書〕

第27次地方自治制度調査会は、今後の地方自治制度のあり方について「中間報告」を発表。

市町村合併特例法期限後、自主合併促進のため、基礎的自治体の人口要件を法律上明示する、都道府県の合併構想の策定、合併や地域

自治組織への移行に知事勧告等、昭和の大合併における法制度を模倣した合併推進の方策が盛り込まれている。

この手法は、団体自治住民自治を著しく制限するもので容認できない。

よって次の事を強く求める。①国と地方との対等関係。地域・自治体の自己決定を原則とする。②人口要件の目標数値は示さない。

③市町村合併は知事の勧告あつせん等は示さない。④段階補正の縮減は市町村財政の影響が大きく行わない。

⑤税源移譲による地方税の抜本拡充地方交付税制度の根幹は堅持する、国庫補助負担金の廃止、縮減の先行実施は行わない。



道路整備は地域振興の動脈

以上、国の関係機関等に対し強く求める。

〔日米地位協定の見直しに関する決議〕

米軍基地に起因するさまざまな事件・事故等から国民の生命・財産と人権を守り、国民の福祉の向上を図るために、現行の日米地位協定を抜本的に見直すよう要望することを決議した。

〔WTO農業交渉に関する意見書〕

WTO農業交渉は本年3月末に予定していた関税や輸出補助金の削減率など交渉の大枠に関する合意が不可能となったが、交渉期限の平成17年1月1日に向けて交渉が続けられており、予断を許さない状況にある。特に本年2月12日WTO農業委員会議長は米などの関税を現行より最低でも45パーセント削減することなどを提示したり9月15日カンクン閣僚会議においては、閣僚宣言を採択できず決裂に終わったものの、関税率の上限設定を盛り込むなど輸出国の主張に偏った大枠

合意案を提案しており、わが国農業、農村そして世界の家族農業にとつて取り返しのつかない事態となりかねない。よってWTO農業交渉がわが国農業の持続的発展と世界の多様な農業の存続が可能となる協定となるために次のとおり対応するよう強く要望する。

一、「多様な農業の共存」を基本としたわが国提案の実現に向け不退転の交渉を行うこと。

二、各国農業の実情や関税化への移行過程などを全く考慮しない、米や麦、乳製品などの一方的な関税率削減提案を断固拒否し品目毎に柔軟性を確保できる削減方式とすること。

三、農産物の輸入が増加するなかで輸入国の正当な権利として農産物の特性に基づく特別セーフガードを堅守すること。

四、WTO農業交渉は、生産者だけの課題ではなく、食料の安定や地域の維持などわが国社会全体に係わる課題であり、国民的理解促進のための対策を積極的に展開すること。

大石 光則

Q 住民投票の実施を考えているのか。

A 住民投票を実施した自治体では、お互いにねじれたり、住民同士がいがみあったり、あまり良い結果が出ていないので、出来るだけ避けていきたい。大いに議論し、ポトムアップ方式で方向性を見出していきたいと思います。

Q 政策や財政等のすり合わせが合意に達しない場合は、離脱もありうるのか。

A 広域合併は捨てていませんが、先ず、玖珠町との基盤づくりが大事であり、合併にむけてすり合わせができるよう、お互いに努力をしなければならぬと思います。

小川 克巳

Q 合併問題は、ポトムアップ方式で対応してきたと言っているが、トップダウン方式ではなかったか。

A アンケート調査や会合で皆さんの意見を伺い、集約した結果によって、広域合併を目標にしてきたものであり、十分に住民の意思は反映されていると思います。

Q 市制移行は特例で3万人となっているが、既に3万人を切っているのではな

A 平成12年の国勢調査では、3万人を超えていました。最近では、減少傾向も少し緩やかになっていますが、

次の国勢調査（平成17年）を待たなければ、はっきりしたことは分かりません。

Q 特例法期限内に向けた合併では、議論が疎かにならないか。

A 任意協議会では、想像してものを言っているだけです。法定協議会に移行し、お互いに全てを出し合って十分に議論をして、新しい町づくり計画を皆さんにお示しをしなければならぬと思っています。

Q 財政のシミュレーションについてはどうか。

A 九重町のシミュレーションはできていますが、お互いのものを持ち寄って、これから作っていくこととなります。

梅木 征治

Q 玖珠郡の将来を決める提案が追加議案とは軽率ではないか。

A 臨時議会をあらためて

開くより、定例会の会期中でありますから、追加議案として提案をいたしました。

Q 県が示したパターンは地域的に割っただけで、大した根拠はないと思われるが。

A 県が示した資料には何百項目ものデータがあり、

玖珠郡合併協議会

設置案 !! 質疑 !!

Q & A

それによって両町は圏域が一つであるとのことから、示されたパターンであると認識しています。

Q 農業共済組合は合併を繰り返したり、農協は短期間で合併したため大きな弊害がでているなどの状況にあるが、今回の合併にそう

いう懸念はないのか。

A 合併は、大変な労力を要するものであり、10年や20年で合併を繰り返すのではなく、50年、100年を見越したものでなければなりません。これまでも、広域合併あるいは5万人を目指してきましたが、周囲の状況もあり法定協議会に移行して、議論をしてみることです。

Q 庁舎等の施設整備はどうするの。

A 庁舎等については、これだけの良い庁舎があつて、新たに造るということにはならないと思う。法定協議会には一般の方も入っていただきますので、その辺も含めて十分に議論をしていただきたいと思います。

井上 里子

Q 7月に実施されたタウンミーティングの資料に法定協議会を設置した後で、住民説明会を開催するとあるが、法定協議会で決まったことを追認するようなの

のじゃなくて、意見が出るような説明会にしなければならぬと思うがどうか。

A 住民説明会を3回くらいやらなければならないと

タウンミーティングで説明してきましたので、138行政区は難しいと思います。4地区を回って意見の集約をするべく努力をします。

Q 合併のデメリットとなっているところを解決すべき課題として、法定協議会で先ず初めに取り上げてもらいたい。

A 議論の焦点になる大きな課題であり、基本的なものとして並行してやらなければならぬと思う。ただ当初は、サービスは高い方に、負担は小さい方に合わせると国も県も言っていました。最近では色んな例を見るとなかなかそうはいかないのが現状で、その辺は2町だからお互い十分に話し合せて、サービスが今以下にならないように法定協議会で議論して、そして皆さん方に説明していきたいと思っています。

佐藤 勝憲

Q 九重町の方針に則り、すり合わせができない場合は、離脱も有り得るという強い決意で法定協議会に臨んでもらいたい。答弁はいりません。

設置案 討論応酬

反対5人の賛成多数で設置案可決



江藤一幸議員

大きな時代の流れの中で、国や県の出先や企業の営業所の統廃合が加速しており、玖珠郡の体力は近年急速に衰えている。また近々のうちに地方振興局も日田市に統合されるのではないかと危惧される。こうした現状にあって、玖珠九重2町の合併では周辺が振り向く基軸には成り得ない。

人口は、特例で3万人であるが、平成17年3月の時点では3万人を切ると思われる。2町の合併では半世紀もたない、そのうち第2の波が来ると予想される。ここは、とりあえず2町合併は見送った方がよい。近い将来、半世紀はもつ合併を目指し、勇気を持って、国や県の圧力に屈せず、5万人以上の効率的な行政運営ができる自治体を目指したい。

そういう観点から法定協議会の設置に反対する。



大石光則議員

法定協議会に移行することは、即合併に繋がるような気がする。



小川克巳議員

町村は多様化する住民ニーズや新たな行政課題に対して、工夫や連携によって今まで地域の実情に沿った個性豊かな行政を展開してきた。もちろん九重町もそのとおりだと思っている。行政改革を二次三次と、今日まで行ってきた実態を評価もせず明確な根拠も示さず、小規模なものは能力がないというような一方的な決め付けで、基礎的自治体の再編を説くことは納得がいかない。

また地域毎の歴史や文化

今、国や県は大きな合併を望む道州制を取り入れようとしているので、本町も期限にとらわれずにもう少しじっくり研究をして大きな合併をした方がよいと考える。

行政や議会主導ではなく、住民投票を行うなど住民不

や面積等を無視して、経済効率・規模の拡大のみに視点を置いたものであり、政治的・行政的空洞化を招きかねず、分権の担い手になるとは到底思えない。

さらには、住民生活にあつては必要不可欠な公共サービスは最も住民に身近な自治体で実施していくべきであり、自治体の規模の小、財政の良し悪しを問わず自治体共通の責務である。その意味から小規模と言えども全ての市町村は、基礎的自治体として当然位置づけられるべきであり、多様な自治体が共存し合える地方自治制度でなければならぬ。

以上のようなことから設置に反対する。

在にならないようにしなければならぬ。対等な合併などないわけで、必ず大が小を呑むことになる。そういう観点から、2町合併に近づく郡法定協議会の設置に反対する。



佐々木静夫議員

九重町には年間を通じて多くの観光客が訪れているが、今建設中の震動の滝の大吊り橋が完成すれば、さらに観光客が増えるのは間違いない。このように九重町には地の利を活かした財産があるが、玖珠町には見当たらない。今後、合併は佳境に入つて進行していくものと思うが、これだけ大きな財産を抱えている九重町を、いまま少し大事にしてもらわなければ困る。

反対

S



玖珠郡合併協議会

起立採択の結果、賛成9人、

賛否は別として十分町民にコンセンサスは落つてき



佐藤美登議員



2年以上にわたって町民との意見交換を十分に行いながら、またタウンミーティングで全部の行政区を回りながら、討論もしてきたと思っている。議会も特別委員会を設置し論を重ねてきた。任意協議会も立ち上げ議論もしてきた。
この提案については、賛成し十分な論を行いながらスムーズな方向性を定めてもらいたい。



穴井太輔議員

賛否は別として十分町民にコンセンサスは落つてき

任意協議会では本音の議論がなされていない。今回は合併の是非を含め新しい町をどうして作っていくかという提案であり、どうしても避けて通れない課題であることから賛同する。

任意協議会で2町の合併の協議もしてきた中で、色んなプロセスがあり本町は本町なりのパターンも考えていたが、現在では、県の示したパターンに沿って十分議論しなければならぬ時期にきている。むしろ遅きに失した感さえする。行政は勇み足があっても悪いし、遅れても悪い、判断を誤ると将来に禍根を残すことになる。



河野範成議員



賛否は別として十分町民にコンセンサスは落つてき

任意協議会では思い切った町づくりの議論がされていなかったのではないかとと思われる。



麻生盛高議員

合併をしない宣言をしている福島県矢祭町とか長野県泰阜村は、庁舎を立て直さない、助役か収入役を置かない、在宅医療・福祉の徹底により終末医療を減らす、職員や議員を減らす、給与の削減等々を実行している。



井上里子議員



賛否は別として十分町民にコンセンサスは落つてき

そして、話し合いの中で、どうしても双方が歩み寄りできない問題が出てきた場合は、各4地区に協議会の方針やあったことを相談することも大切ではないかと思っている。

かと思った時、やっぱり難しいのではないかと、それから玖珠郡の二つの町が生活圈も近いし、今まで合併に向けて任意協議会で結構話してきたので、法定協議会で話を進めていって、後で住民に3回意見を聞く説明会もあるし、そこでもし、痛みを自分達で受けても単独でいきたいということになれば出来るかもしれないけど、とにかく話を進めてもらいたいという意味で法定協議会の設置に賛成する。

以上、賛成の立場からの意見とする。



私の一般質問

9月10日に6名が質問しました。

質問と答弁の内容を要約してお知らせします。

江藤 一幸



50年もつ合併を！

問 市町村合併を考える「タウンミーティング」での民意はどうだったか。総括を！

8/19県庁での、県広域行政推進班・市町村合併担当職員と、玖珠九重両町の市町村合併担当課長との協議内容は？

玖珠と九重の2町で基軸となれるのか？ 森林管理署・法務局・九電・NTT・保健所が日田に統合され、



この子らのためにも良い判断を

その内に地方振興局も統合されるのではないか？人口もどんどん減っている。2町で夢が描ける様な町づくりができるか？半世紀もつ自治体になりえるのか？問う。

2町で法定協へ

答 「タウンミーティング」東の方では、何が何でも早く玖珠とやれという意見、飯田の方では、この合併は反対という意見もあった。

広域合併の旗は降ろさず、2町で法定協議会、まず基軸をつくる事を説明、大方の納得をいたした。

2町でも単独でも夢を描くのは難しいが、いい町を描くべく最大限の努力をしていきます。

どうする

学力向上！



問 西日本新聞のインタビューに、現場の先生と力を合わせて学力向上に取り組むと言っていました。県下40番の学力向上の具体策は。

授業の習熟度の把握は、教育委員会としてどうされるのか。

35人以上の学級を小人数学級にする様、県に要望を併せて町単独では考えられないか。

教育現場

努力している

答 1つの授業を2人で教える、TT方式を取り入れたり、小・中学生全員を対象に学力検査の補助等をし、さまざまな基礎学力の習熟を図っています。県の台所事情もありますが、できるだけ30人学級を進めてほしいという希望は持っています。

「幼保」問題の洗い出しを！

問 幼・保一体化に伴う施設の統廃合で、町内一ヶ所の町方針を、幼児を持つ親の会、各幼稚園・保育園等での説明会の集約は…！若者定住から考えたら町内に4ヶ所での幼保一体を望む。

2年幼稚園にする事によって、今年度を入れて3年間で約一億円の持ち出しが多くなった。幼保一体化、九重方式の事業評価、問題の洗い出しをし、変えて行く勇氣も必要だ。

十分な

コンセンサスをとる

答 財政的な面とか、少子化の進行の面など総合的に再検討を行って、4地区に建設する計画から、4地区統合へ変更した計画を提案しましたが、事前に協議するなどの配慮が無かったと反省しています。検討委員会を立ち上げる。

今後は学校の空き部屋も出てくるので、誤りのない判断をしていきたい。

坂本憲治



福祉の増進は！

問 現在、九重町の高齢化率は約30%ですが、将来10年先には40〜50%と言う、高齢化時代に突入する訳ですが、介護施設の不足と共に当然、介護保険の値上げも予想されます。何らかの障害を持つ人も、高齢者の方々もまた、健康者にとっても、自分自身の力で生きる事は、だれしも願うところですか。

町民の皆さんが、いつまでも元気で、明るく、楽しく生活する事こそ、福祉の大切な目的だろうと考えます。町も、福祉事業には、積極的に取り組んでおりますが、今回、新たに園芸と福祉について提案します。



生き生きハウスで野菜づくり



健康づくりの園芸作業も

園芸は、我々の回りに数多くあり、経済的役割が主流であります。植物を育てる事により、身体的、精神的な効力も多く、日本各地で普及しつつある。福祉事業であると聞いております。金のかからない今からの時代にマッチした

事業だと考えます。園芸と福祉について調査研究をしてはどうか。

新たに調査必要

答 現在九重町の高齢化率は進んでおる事は事実です。生き甲斐対策として、老人

クラブを対象に、保健師の派遣とかいろいろ取り組んでおります。

園芸、農作業が安上がりな健康方法と言うことで、健康維持のためにも、私どもとしても、新たなご意見ではございますし、調査等させていただきます。

遊休施設等の福祉有効活用は

問 福祉目的での事業としては、行政の援助と指導なくして環境の整備、普及は進まないと思います。

町内の休耕田、現在事業化している、生き生きハウス等の積極的な推進、畑を持たない人達には町民農園を作るとか、都会の人達の為に、オーナー制の畑、水田等の場所を提供するとか、たくさんの事が考えられますが、検討してはいかがですか。

生き甲斐は金を稼ぐ事も

答 私どもの町は農林業の町です。耕地を利用した、家庭菜園等の取り組みも、福祉的には役立つと思っています。九重ふるさと館、JA飯田ドライブイン等、半数以上の方が65歳以上の方です。過去3年間生き生きハウスは、34棟を設置していますが、この制度を老人会等に紹介していきたいと考えております。



南山田小学校は老朽化 改築工事を早めに

問 南山田小学校は築後約30年、当時スラブ方式で建設されたために、雨漏りなど漏水で天井や壁など損傷がひどく老朽化が著しく進んでいる。先般は校舎の壁の一部が崩壊した。幸いにも児童や先生に被害がなかったから良かったが、大惨事になるところだ。事故が起きてからでは遅い、一日も早い大改築が望まれるが、どうか。



校舎の安全が危惧される南山田小学校

17年度 着工

答 ご指摘の状況は十分理解をしています。整備計画では16年耐震診断調査、17年大規模改修設計委託、18年大規模改修工事となっていました。1年繰り上げて実施することにしました。

さらに検討を重ね、本年度耐震診断調査を先行し、可能な限りの対策を行い、大規模改修は国の補助を受けられる関係もあり、先程申し上げたようにご理解いただきたいと思います。

どうする 市町村合併

問 合併特例法の期限切れを控えて、国や県の強制的合併への締め付けが一層強まるが、九重町としては合併するならば5万以上の広域合併を目指すか、単独で行

くか毅然とした態度で臨むべきだ。玖珠・九重の2町では3万を切っており、中途半端な合併はすべきではないと思うがどうか。

合併協議会を設置して議論

答 将来を推計すると単独説は厳しいと思います。すでに県と合併協議が進んでいる地域が優先、法定協を設置し、重点支援地域指定を受けたところに予算の重

点配分をすると公言している状況です。今後、十分議論を尽くして後悔することのないように状況を見極めながら合併の方向で行きたいと思えます。

幼保一体化は民意を反映すべき

問 就学前教育の充実と子育て支援を全面にスタートした九重方式の幼保一体化は、わずか1年で根幹部分の施設で計画変更を考えているようだが、当初段階の

議論が不足していたのではないかと、また、保護者を始め関係者をだまそうちにしたようなものだ。民意を十分反映すべきだがどうか。

検討委員会で今後十分検討

答 当初は各地区毎に予定していたが、国庫補助や県補助で施設整備を受ける際、県の審査会で厳しいチェックがあり、4カ所の設置は厳しい状況があります。今後、民間人を含む「検討

委員会」を設置して、通園対策、給食の問題、統合問題、子育て支援センターの機能、地域連携などを検討会議で協議し、合意形成を図りたいと思います。

佐藤 勝憲



ドリーム九重開発 どうなる

問 ドリーム開発は昭和63年に計画され、これには町も力を入れて来たと思います。この開発は、九重町観光の三本柱として、立ち上げをしたと思います。九重森林スキー場は、今九重町の冬の観光の目玉となっている。鳴子川開発も工事の段階になっている。ドリーム九重は、前に進まない地主も4社も変わっている。広大な土地284町

歩は、この先どうなるのか。

今後、先が見えにくい

答 熊谷組としては、経営が厳しいので、新しい会社を10月1日に設立して、10月以降も従来どおり、このドリームは継続し、この新しい会社が経営母体になってくる訳です。この事がどうなるかと言うのは先が見えにくい。



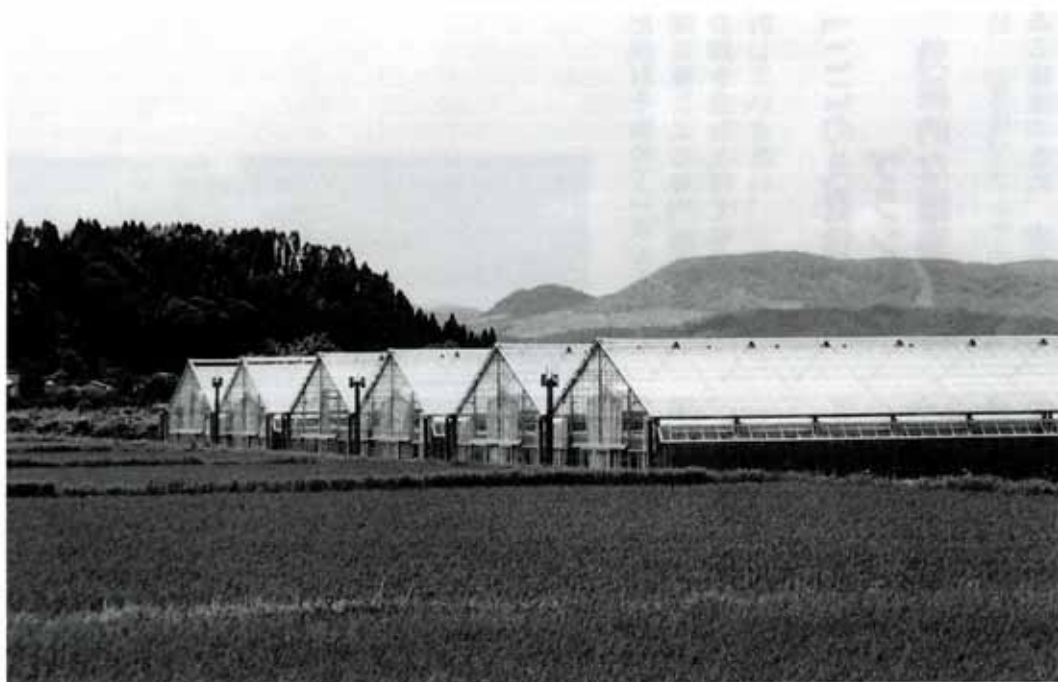
放置されたままの開発予定地

『アートランド九重』の現状は…！

問 アートランド九重は、3年前に問題となり、その後3ヶ年が経ちました。地主の方に土地賃借料が支払われていない。早く土地代を支払うようにする事、地主と話し合いをする事等、町の対策はどうしているか。

解決に 向かって 努力

答 土地使用料未払いについては、農業経営基盤強化促進法に基づいて、農業委員会を介して料金設定がされています。アートランドの責任者が行方不明になっている、町が代わりに支払うのは、極めて難しいと考えられています。



先が不安視されるアートランド九重

井上 里子



住民によく見える 行政改革推進を

問 町の行政改革推進（8年度～16年度）にあたって、住民の理解と協力を得るために、実施計画並びに推進状況を「広報ここのえ」で公表することが約束されている。

しかし、実際にはそのようなになっていない。町が進めている幼保一体化は、子育て支援及び幼児の保育と教育の充実のためであると同時に、行政改革

の一環でもあるので、初めから、内容・推進状況等を一年一年住民に知らせるべきであった。この問題を含め、行政改革の主なものについて、「広報ここのえ」でわかりやすく公表してもらいたい。

「広報ここのえ」 に掲載する

答 大変重要な問題なので、「広報ここのえ」に掲載するよう、早急に担当課と協議し努力していきたい。



複合的な機能を考えている公民館

地区公民館の 今後は

問 行政改革実施計画の中に、地区公民館の今後について14年度見直し分として、「住民生活全般にわたるサービス」の向上を図るため、複合的な機能を備える新たな施設づくりについて調査研究する（現施設のリフォーム診断も視野に入れる）ことが追加されているが、町としてどのような施設づくりを考えているのか。また、調査研究の進捗状況は。

福祉等複合的な 機能の施設に

答 地区公民館が将来の社会教育の枠を超えて、福祉・健康・その他広範囲な活動をしていくことが時代のニーズとなつていっているので、そうした複合的な機能を備えた施設づくりはできないか考えてきたところです。財政的なことも考慮しながら、何が必要か、バリアフリー・リフォーム等も考えていかなければならない。調査研究については、ま



女性の活躍に期待

だ検討を始めていませんが、関係課による専門的な検討会議を立ち上げて早急に検討していきたい。

「11」のえ女性 プラン」の 効果的な推進を

問 「女性プラン」の実効ある推進のため、次のことに取り組むべきである。
①3年毎の実施計画の精選
②庁内推進体制の充実
③住民参加推進体制の整備

④男女共同参画推進条例の制定
推進体制を
充実させる

答 ①実施計画は重要なものを精選し、16・17年度分の計画を作成する。
②庁内推進体制は関係課長・職員との連携で充実させる。
③住民参加体制は女性会議（9団体代表）に新たな団体・男性も加える。
④条例の制定は内容について調査研究する。

梅木 征治



新しい米作り町は 生き残りをかけて どう取り組むか

問 平成14年12月3日に、米政策改革が示された。国は目標年次の平成22年より、担い手・農業者を主体役として、減反政策から脱却して、消費重視、市場重視(求める米・求める量)へ政策転換する。政府は米から手を引く事になり、地域の独自性が重要となり、生き残れるかが問



かけぼし米で売れる米づくり

題で、町の指導性が求められる。政策決定の中で、特別調整促進加算について、中山間地の農業への配慮が望まれる。生き残りの出来る政策決定を。

平成16年度より 新しい米政策で

答 平成15年7月31日に、玖珠九重水田農業ビジョン策定協議会を設立した。県・両町・JA玖珠九重・

JA飯田を含めて玖珠郡が一体となった組織を強化して、ビジョン作りにより水田農業構造改革交付金を受けるようにしなくてはなりません。

子どもの能力を 伸ばせるか？

問 中学校の部活動。生徒数の減少で、複数のスポーツが出来なくなっている。能力があっても、部がない為に練習も出来ない。町内の中学生が、他の町にスポーツ留学して頑張っているが、保護者の経済的な負担も大きく大変である。生徒数の減少にも歯止策が必要では。町内では小学校児童中心に色々なスポーツ教室が盛んに行われている。能力を伸ばす為の対策が必要である。社会体育と組み合わせさせて指導の強化を進める事も出来るのでは。町内には、日本を代表する指導者もいる。指導をお願いしたいけば、大きな大会も出来るようになり、活性化にもつながり、青少年の健全育成にもなり、次世代の町を

組織を強化して、 部活動の活性化を図る

答 生徒が減少していく傾向の中で、学校現場で今後生徒と指導する側の先生と

背負う人が育つのでは。対策と取り組みは。

十分調整しながらいかなければならない課題だと思っております。



少年スポーツクラブでがんばる野球少年



戦前の予想に反し、選手全員が活気あふれる大応援団に乗せられて、勝つは勝つは、とうとう準決勝まで進出、成績は下記のとおりです。
大会初日に行われた陸上400メートルリレーも、予選9位と健闘、来年こそ予選突破を誓った。



県民の祭典、第56回県体が、「泉都から、はばたけ郷土のアスリート」の大会スローガンのもと、大分市・別府市を中心に、1万名超の参加者により盛大に開催された。玖珠・九重の合同チームも、郷土の名誉と発展の為に体力を顧みず、参加させていたいただきました。

県民体育大会 玖珠郡議員チーム大健闘

第56回大分県民体育大会 (2003.9.20~22)

選手名簿

監督 小野 菊男 (30)
コーチ 河野 範成 (31)
選手 小川 克巳 (1)
" 日隈久美男 (2)
" 宿利 俊行 (5)
" 松本 義臣 (12)
" 湯浅 至 (16)
" 梅木 征治 (17)
" 坂本 憲治 (18)

議員ソフトボール 玖珠郡チーム 第3位

選手 江藤 徳美 (20)
" 高田 修治 (21)
" 佐藤 美登 (22)
" 江藤 一幸 (23)
" 神田 義彦 (25)
" 藤野 修二 (28)
" 竹尾 允文 (32)
" 佐藤 勝憲 (33)

※ 背番号順

第1試合

チーム名	1	2	3	4	5	計
下毛郡	0	3	4	2		9
玖珠郡	4	5	0	1x		10

第2試合

チーム名	1	2	3	4	5	計
豊後高田市	1	0	0	1	0	2
玖珠郡	3	0	1	0	x	4

第3試合 (準決勝)

チーム名	1	2	3	4	5	計
玖珠郡	1	4	1	2	3	11
津久見市	3	0	0	5	5x	13



ソフトボール 3位入賞の玖珠郡議員チーム



大型農機具の有効活用

結の復活



日野賢二さん

私には、今年3月農業大
学校を卒業し、家業を手伝
う長男がいます。

それまでは、父と私で家
業の（仰龍門滝乃湯）農
業・旅館・御食事・土産店
をしていたのですが、今年

からは3人なので少しは楽
になりました。

私達の地域も高齢化にな
り、一人作業が大変と感じ
る農家が多くなり、高額な
農業機械も負担が大きく、
買いたいけれど買えないの
が現状です。

そのような現状の中で、
私は4名で協同作業をして、
1町3反の牧草を作り、個々
の農機を持ち寄り、耕作・
種まき・収穫まで4人でし
ていきます。だから全て1回
で作業が終わり、牧草を各
家まで持ち帰る事が出来ま
す。ですから次の日からは、
自分の家の農作業ができる
という事です。

高齢化になる地域が多く
なる中で、目的を持つ人が
集まり、若者と協同作業を
する事により地域が少しで
も明るくなる様な気がしま
す。

私は、これからは、個人
の能力を集めてグループ化
し、地域を考えると、今以
上に活性化され良いものが
生まれる、そんな気がしま
す。

わたしのひとこと



矢野正三さん

故郷と

思うとき

故郷の事をふと思い出し
た時、過ぎ去った少年期の
頃や青年期の頃の思い出が
脳裏をかすめます。親から
叱られたこと、友達と喧嘩
したこと、また、いろいろ
楽しかったこと、悔しかつ
たこと、家族での思い出な
どいろいろ……。この思い
出がある限り、私は私であ
り続けられるのだと思いま



山里の清流

す。脳の前頭葉で生まれる
という、夕焼けを見たり、
別れの時などに感じる何か
切ない、この感情こそが今
もう一度忘れかけた思い出
を呼び起こしてくれます。

今、生活の中にメンタル
なものが失われていく時代
であります。我が故郷、九
重には山、川、温泉、そし
て人……沢山の資産があり
ます。この恵まれた環境の
中で、まず我々大人が自ら
の姿勢を正し、道徳心の向
上や毎日の生活から、いわ
ゆる足元から気を付け、環
境改善の創意工夫をしなが
ら、故郷の発展と思い出づ
くりに取り組んでいくこと
から始めなければならぬ
のではないのでしょうか。

いんな町だより

良い町

野上中学校3年

小野 茜さん



これから九重町は、時代の流れと共に大きく変わっていくでしょう。しかし、この九重町には、変えずに残しておくべきものがたくさんあると思うのです。

例えをあげるなら、九重町には私たちが参加できる行事やイベント、ボランティア活動などが豊富にあります。これによって、無料あるいは低価格で様々な経

験をすることができ他、精神的な成長にも大きくつながっていると思います。他にも国際交流が盛んなので、普段から海外の人とはふれ合う機会の少ない私たちでも生の文化や生活を知ることが出来ます。

そして、何よりも九重町の大自然、文化や伝統です。今、日本では環境問題が盛んに訴えられています。環境破壊や森林破壊が毎日のように起こっているからです。しかし九重町には、未だ美しい自然が豊富に残さ

れています。これから、九重町を新しく変えていくことは絶対に必要な事で、そうすべきだと思います。しかし、変える前に今一度、本当に九重町に必要な物は何かを考える事が大切だと思います。そしてそれが「良い町」への第一歩だと思います。



議員リレー

随想

33

燃える・秋



竹尾 允文

今年はずいぶん、長雨という異常気象に見舞われ、農作物が不作で、先日も自主流通米の卸入札価格が前年比4割高で過去最高額で落札されたと新聞に載っていました。

高値が生産者にも反映できるというのがと思っていた矢先、米泥棒・野菜泥棒が例年になく多発しているらしく憂うべきことです。

作況指数は92ということですが平成5年以来10年ぶりの不

作だということに、農家泣かせの事件だと思えます。このように、あまり良い話は聞かない中、今年の第56回県民体育大会の議員ソフトボールにおいて、玖珠郡代表チームは郷土の誇りと名誉をかけて激しく戦いました。1回戦は不戦勝、2回戦の下毛郡戦では大接戦で、みんな燃え上がり、幸運にも私が打った球がサヨナラヒットとなり、逆転勝ちしました。準々決勝では豊後高田市を破り、準決勝へ進

出しました。準決勝進出は20年ぶりくらいとのこと。みんな沸き上がり、優勝も夢ではないとチーム一丸となって頑張りました。しかし、津久見市もなかなかの強豪で、惜しくも僅差で敗れました。結果は3位に終わり、玖珠郡チームにも負傷者が出ましたが、私自身こんなにスポーツに燃えたことは何十年ぶりだろうかと思えます。足も筋肉痛になりましたが、生涯忘れられない思い出になりました。



今年の夏は雨が多く、気温が低い日が続き、農作物の出来が悪いように農家の人から聞く。農家にとっては大変な年になりそうな気がする。

しかし、イラクでは戦争の傷あとが残り、人々は生活に困り、生きる力も失っているように見える。それに比較すると、日本はまだ幸福だと思おうし、農家の人も頑張っしてほしいし、一日も早く世界に戦争がなくなる事を祈りたいと思います。

佐藤 勝憲

広報委員長 佐藤 美登

広報副委員長 小川 克巳

広報委員 佐々木 静夫

大石 光則

佐藤 勝憲

坂本 憲治

江藤 一幸

